

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100814		
法人名	株式会社 福岡総研		
事業所名	佐賀県鍋島紀水苑 さくら		
所在地	佐賀市鍋島町麩久1992番地1		
自己評価作成日	平成27年11月7日	評価結果市町村受理日	平成28年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成27年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会の中で四季を通して、文化を通して感情感性を呼び起こし心豊かな生活を支援する事を理念としている。有田焼の器は主に源右衛門や深川を使用し、佐賀の文化を取り入れている。おやつ時間を大切に、和、洋と丁寧なおもてなしを心掛けている。菜園では野菜作りや芋ほりを楽しんでいる。広々とした庭で好天日にはレクリエーションやおやつ時間など野外活動が出来る。食事の面では新鮮な野菜など1日30品目の食材を使った献立で見た目にも完食されるように工夫している。日当たり、風通し共に大変よく生活環境にも配慮している。春は近くに桜並木があり居室からも遠目に眺めることが出来、秋には苑庭で紅葉狩りができる。バルーン時期は時々近くに沢山降りてくることもある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、田園が広がり、見晴らしのよい開放的な場所に建っている。入居者と一緒にホーム内の庭から桜を見たり、バルーン大会の様子や紅葉を観るなど四季を感じることができる取り組みをしている。食材や料理、食器に気を配られ、栄養と彩りのある食事の提供に力を入れている。また、設立当初から働いている職員が大半で、実習に来た短大生が自ら希望し就職したりと、職場環境の良さや、和やかな雰囲気を感じるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念に沿ったケアが出来る様に玄関・ホールに理念を掲げ皆で共有し実践している。	理念の掲示をしたり、各職員間で振り返る機会を持っている。また、理念に基づいたケアを意識し、入居者に関しての気づきについて職員間で話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がいつでも立ち寄れるように声かけしている。ご近所から野菜等の差し入れがあり利用者に喜ばれている。	職員が自治会の総会へ参加したり、回覧板を活かして情報交換をしている。また、ホームで行うクリスマス会へ地域の方が参加したり、週に1回、歌や指運動等のボランティアの訪問などを通して地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年自治会総会に出席し、介護・認知症についての話をし理解を求め。おたっしや本舗鍋島職員も同席される。(出席者50~60名)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に自治会長、民生委員に出席依頼しクリスマス会には地域の方々が14~15名参加され出し物等にも協力して貰っている。	年6回開催し、クリスマス会に合わせるなど、家族や地域住民が参加しやすいよう工夫をしている。消防署職員OBが緊急時の避難や対応についての勉強会をしたり、写真入りの便りを見せながらホームでの生活について話すことで、伝わりやすさと意見の出やすさに配慮をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	おたっしや本舗主催の会議には殆んど出席し、交流を図っている。又年度末の自治会総会には共に出席し地域との交流を共有している。	日常的に相談連絡しやすい関係性ができている。ホーム職員と地域包括支援センターの職員が一緒に地区の自治会に参加し、ホームの入居状況やヒヤリハット報告を行うなどホームを知ってもらうための協力体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関鍵は職員の昼休みのとき以外は朝から開錠いつでもすぐに庭等出られる様になっている。職員は常に目配りをしている。	身体拘束を行う状況になった時は、職員会議で身体拘束に頼らないケアの方法について十分な話し合いをしている。また、言葉による制限にも配慮をしている。やむを得ず、身体拘束が必要な場合は、家族と話し合い同意を得ている。玄関の施錠については職員の休憩時間に1時間のみ施錠している。	今後とも施錠に頼らないケアの検討を続けられることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のスタッフ会議、勉強会で取り上げ、意見交換をしている。又市の研修会には参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、利用者に成年後見制度を利用している人がいた為職員はよく理解し、支援していた。(看取り)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしている。又改定時は丁寧に説明し必ず同意書を貰っている。解約は利用者の申し出に沿って行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは面会時に意見を聞いたり相談に乗ったり、話し合いをしている。勤務年数が長い職員が多く家族とも信頼関係が出来ていて、色々な相談にも乗っていて家族のような関係が出来ている。	面会時に抹茶とお菓子のおもてなしや、昼食時の面会時には一緒に昼食を食べてもらう等、話しやすい雰囲気づくりを行っている。年に1回、便りとは別に個別の便りを出し、情報共有を図っている。また、出た意見は職員間で共有し、意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議に出席し意見を聞き尊重している。又年2、3回懇親会を設け意見交換をしている。代表者は職員の職務姿勢に感謝し職員の意見に沿うように努めている。	入居者のことも考えるが、職員のこと考えた職場の環境づくりをしたいと考えている。会議で意見を求めたり、必要時には個別に声をかけて意見を聞くようにし、出た意見については職員と話し合いながら、反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は入居者家族との信頼関係を築き職員がケアし易い環境を整える事を常に考えている。昼休はスタッフルームにてソファ等で十分に休ませ午後からの仕事にメリハリをつけている。常々定刻に帰宅するように声かけをしていて殆んど守られている。(急患などの場合を除く)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	研修会にはいつでも参加出来る様に促している。参加費は内容にに応じ助成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズ同士で交流研修があり、本部での勉強会で発表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から意見、要望を真剣に聞き取り、安心・信頼が保てる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の意向や要望を聞き、対応についての確認をし、負担の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向、要望を確認し、収集分析した情報、原案を検討し、要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除、食事の準備、片づけ、洗濯物干し、たたみ等自分で出来る事は時間がかかってもして頂いている。時にレクリエーションのリーダーになって頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は居室で過ごして頂き、自宅でくつろいでいる様な雰囲気作りをしている。苑のもてなしの心にも配慮をしている。遠方からの方には一緒に食事の提供もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使っていた馴染みの物を家族に持って来て頂いている。又家族や親せきの方が面会に気易い様な雰囲気作りをしている。(居室の整理整頓、もてなし等)	入居者の馴染みの方が面会に見えた際は、抹茶とお菓子でおもてなしをしたり、居室でゆっくり話ができるようにするなど、関係性の継続に配慮をしている。また、自宅近くなどなじみの場にドライブに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間で問題があるときは職員が間に入り他の事をして貰ったり、気分転換を図ったり、席替え等臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退去されても、見舞いに行ったり家族が遊びに来苑されたり、連絡されたりと、今でも関係が続いている家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族とは面会やお電話の際に対話を重ね、利用者とは日々のコミュニケーション、ケアを通して思いを聞いたり、汲み取りプランに反映している。	自分の思いが言える入居者には、直接意見を聞きケアプランへ反映をしている。自分の意見を伝えるのが難しい入居者に関しては、家族の要望を聞いて入居者の思いに沿ったケアが出来るように配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との対話を重ねることにより、生活歴の把握に努めている。又、入居前には担当ケアマネや他事業所との連絡を密に取り、サービス利用の経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの利用者とのコミュニケーションの時間を確保している。又、出勤日以外の事は経過記録やスタッフとの話から情報を得て把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の実施前に参加できない家族、主治医、看護師など関係者に意見を聞いている。その上で会議を行うことで課題がクリアになり、又よいモニタリングの場もなっている。	月1回モニタリングをし、職員間の情報交換と記録を行いつついる。本人や家族、医師等に事前に意向を聞いて、担当者会議をとおして入居者のケアについてチームで計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から介護計画書の内容を把握してケア、記録を行うようスタッフ全員に周知している。又、体温表にケアプランの介護内容を記載し○、×で評価しているので実践や見直しに活かしやすい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護ステーションより通院介助、訪問マッサージなど本人や家族の要望に対応している。又、サポーター事業を活用しレクリエーションなどを提供して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回の運営推進会議に地域の方々に参加して頂き交流を図っている。クリスマス会には多数参加して頂き余興にも協力頂いている。消防士OBには会議で指導して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診が基本だが、家族の要望があれば協力医療機関にお願いしている。契約時に決めているが途中変更可能。訪問診療も利用可能。	入居時の契約の際に、かかりつけ医の受診は家族が送迎をすることを説明している。難しい場合は職員による支援を受けることができる。緊急時は協力医療機関や訪問看護ステーションと協力し、24時間体制で医療連携をとることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを基本に、僅かな変化も見逃さないように気配りをし、少しでも問題があれば看護師や医師に相談している。看護師は24時間体制で毎週金曜日に勤務している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診の医師とは日頃から話しやすい関係にあり相談し易く家族も安心されている。入院時は面会に行き医師、看護師とも話し、早期退院を促す。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	26年8月、27年10月に看取り経験あり。終末期のあり方について家族、医師と入念に話し合いスタッフ一同緊張感を持って支援に取り組んだ。(夜間はメールにて報告)	看取りについては、入居時にホームの方針を説明し了承を得ている。必要に応じて医師から家族へ説明され、職員を含めて方向性を共有したケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車通報訓練は消防訓練時に全員行っている。救急車対応も幾度か経験あり、その都度皆で話し合い、スムーズに対応出来る様に持っていくもの等のマニュアルを確認している。(電話の前にマニュアルを貼っている)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしていてスピーディに行えるようになってきている。近所、地域住民との交流もあり、災害時の協力をお願いしている。	通報訓練は年2回行い、うち1回は消防署の立ち会いもある。また、18時に夜勤職員1人で対応する夜間想定避難訓練を実施し、職員間で状況確認し、地域の方からも意見をもらっている。避難場所の確認や備蓄等の準備も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手にこちらの言う事が分かっていると思いながら会話をしている。お年寄りも皆、人生にプライドを持っている事を常に意識しながら対応をしている。	職員の入居者の声掛けには、尊重した態度で接している。便に関する事については、小声で確認し、オムツ交換は入居者本人の部屋で行っている。チェック表の管理もきちんとされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中で希望や思い等を聞き出し、本心を見極めながら、出来るだけそれに沿ったケアを心掛けている。(個別レクリエーションや服装)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と利用者のどちらかを優先すると、どうしても無理がいき職員の負担も大きくなる為、実務をこなしながら並行して本人の希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけやイベント時は服を選んで貰い、アクセサリーやスカーフなどでオシャレを楽しんで貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つと考え、好物を聞いたり皆で献立を考えたり、テーブルを囲んで盛り付けなどを楽しんで貰っている。器は有名有田焼を使用し目でも楽しめる様に心配りをしている。準備や後片付けなど、出来る人には手伝って貰っている。	食器に「源右衛門」「深川製磁」が使われ、食材の盛り付けも見た目が良く、食欲をそそる工夫がなされている。おやつの時も、和菓子と洋菓子で食器や飲み物を変えるなどの、工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では1日30品目の献立で、完食出来る量を提供している。水分補給は日々十分行っていて、特に病気の時は量も記録し、全体量をチェックしている。入居時より栄養状態が改善されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアをしている。出来ない人は介助している。それぞれに合った歯ブラシを使用している。2週間に1回の歯科往診あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を見ながら排泄パターンを把握し、促す。夜間頻尿者も出来るだけ自力でトイレに行ける様に支援している。	自力での排泄が難しい入居者にはパターンを考慮して、職員が声掛けをしている。職員全員が入居者の自立支援を目標としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆んどがカマグを服用されているが、他には昼食時に毎日ヨーグルトを提供している。マイナス日が続くと牛乳、ヨーグルト、繊維質食物を多く提供している。おなか、お尻のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は半数ずつ毎日午前中だが、出来ないときは午後に変更。	日曜日以外の午前中で週5回入浴日を設けられている。状況や希望に応じて曜日や時間にも応じるなど柔軟に対応されている。入浴された入居者には、職員がさり気なく入浴に関する話題等を話したり、コミュニケーションを取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはマイペースで過ごされている。居室で休まれたり、ホールソファで休まれている。昼夜逆転しないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届けられた時内容をチェックして名前と日付を入れ、先ず1人1人の1週間分を作り事務所に保管している。小分けした1日分を食堂に準備し、名前日付を確認して手渡し飲まれてしまうのを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や婦人雑誌はいつでも見られるように手の届く所に置いている。編み物、読書、パズル等好きな事をされる時間も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や花見など希望者を募り出来るだけ出かける様にしている。遠出や外出が無理な方には好天気にお茶の時間を苑庭で過ごすて頂くような支援をしている。又ホールの出窓カウンターでお茶の時間を過ごすて貰い出かけた気分を味わって頂くように工夫をしている。	ホーム開所時は独歩だった入居者の方々が、年齢と共に筋力低下などで近場までしか歩けなくなったり、車椅子利用となり外出の機会は減ったが、2~3人の入居者は、食材の買い物に同行してもらったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事が理解できる方には必要時に家族から現金を渡して貰い、買い物時に本人が支払をされる。混乱が生じたときは家族に相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に了解を取っていて、要望があればいつでも電話が出来る様に支援している。手紙等は可能な限り居室で保管して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールの壁を、入居者と共に作成した折り紙や飾りで演出している。季節感を取り入れる工夫をしている。室内はとても明るく風通し、日当たり良く洗濯物、寝具、調理器具等日干しが出来衛生的である。苑庭には紅葉があり秋には紅葉狩りが出来る。	以前は、職員が入居者と一緒に施設内の掃除や飾りつけを行っていたが、最近では認知症の進行などで手伝われる方が少なくなっている。リビングは日当たりや風通しもよく、掃除も行き届き、心地よい環境を作っている。飾り付けは、季節を感じられるように配慮し、幼稚にならないように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓以外にも丸テーブルや2人用テーブルがあり又窓際はカウンターになっていて広い庭をながめながらお茶を楽しむ事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に相談し、使い慣れた物を持って来て頂いている。時々交換をお願いしている。	入居者の部屋には、写真やぬいぐるみを飾っており、持ち込み物に制限はない。その人に応じた居室の環境作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂などは分かり易く表示し、居室入口には本人と分かるように写真を貼り、自室を確認して頂いている。		